

## 令和6年度 第1回（第20回）山県市子ども・子育て会議 議事要旨

【日 時】 令和6年8月1日（木）15：00～16：30

【場 所】 山県市保健福祉ふれあいセンター 3階ボランティア室

【委員等】 （委員） 三輪 聖子 （岐阜女子大学家政学部生活科学科）《会長》  
藤田 淳 （山県市PTA連合会代表（いわ桜小学校PTA会長））  
柏木満美子 （児童養護施設若松学園長）  
山田 篤子 （主任児童委員代表）  
川島 誠 （小中学校校長会長（伊自良北小学校長））  
河野 隆 （はなぞの北幼稚園長）  
堀 貴子 （保育園長代表（富波保育園長））  
辻 佳代 （保育園保護者代表（高富保育園））  
管野さやか （公募による市民）  
大西 義彦 （生涯学習課長）  
平工 雅之 （学校教育課長）  
大西 美紀 （子どもげんきはうす館長）  
丹羽 洋子 （高富児童館館長兼子育て支援センター所長）  
※山田篤子委員、河野隆委員欠席

（事務局） 正治 裕樹 （山県市子育て支援課長）  
辻 千津子 （山県市子育て支援課課長補佐）  
毛利佐知子 （山県市子育て支援課課長補佐）  
酒井 香織 （山県市子育て支援課課長補佐）  
梅田 寛之 （山県市子育て支援課係長）  
塚本 愛 （山県市子育て支援課係長）  
大村 統子 （山県市こどもサポートセンター所長）  
計画策定支援業務受託事業者（アトリエゆまあひ）

- 【次 第】
1. 開会
  2. 子育て支援課長あいさつ
  3. 会長あいさつ
  4. 議事
    - (1) 子ども・子育て支援事業の実施状況 (資料1、資料2)
    - (2) 「山県市こども計画」の策定について (資料3)
    - (3) 山県市の現況（将来推計人口等） (資料4)
    - (4) 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告書 (資料5)
    - (5) 中学生・高校生アンケート (資料6)
    - (6) 山県市こども計画骨子（イメージ案） (資料7)
    - (7) 今後のスケジュール (資料8)
    - (8) その他
  5. 閉会  
《その他の参考配布》こども大綱

---

### ■ 開会（進行：子育て支援課）

・本会議を公開すること、傍聴席を設けること、音声録音・写真撮影する旨の説明、資料

確認、委嘱状の確認

■ 子育て支援課長あいさつ

■ 会長あいさつ（会長）

■ 議事〔以降司会進行：会長〕

○会長 それでは議事（1）「子ども・子育て支援事業の実施状況」について事務局から説明を求める。

～ 資料1、資料2について事務局より説明 ～

○会長 御質問等あればお願いします。

○会長 資料1からすると、概ね計画通りに事業が進んでいるということか。それでは次の議事（2）「「山縣市こども計画」の策定について」について事務局から説明を求める。

～ 資料3について事務局より説明 ～

○委員 こども計画になることによって裾野が広がって予算規模が大きくなるということか。

○事務局 以前から実施している事業の規模が純粋に拡大するというわけではなく、これまで実施してきた様々な対策を、こども計画として整理していくことになるのではないかと考えている。当然ながら新規対策を講じる場合は予算が新たに措置されることにはなると思うが、予算が全体として拡大するかどうかにかかわらず、施策を整理充実させていくという理解でお願いしたい。

○会長 資料3については、山縣市として今後こども計画として策定してよろしいかという資料になる。これでよろしければそのように進めさせていただくことにしたいと思う。それでは次に移るが、議事（3）「山縣市の現況」から、議事（5）「中学生・高校生アンケート」までをまとめて事務局から説明を求める。

～ 資料4から資料6までについて事務局より説明 ～

○委員 ニーズ調査について、前回・前々回と比較すると、問13など割合が大きく異なっているものがあるが、何か理由があるのか。

○事務局 複数回答は、全回答者に占める割合で算出しなければならないが、単数回答と同じように合計して100パーセントになるように計算してしまっている箇所があるので前回と同じ集計法に修正する。よって、前回・前々回との比較において同じような割合になるものと思われる。

○委員 出生数は、今年度は68人と予想されるということか。

○事務局 1月から6月までの実績を基に推計した数値である。母子手帳の交付状況から考えると、令和6年前半の出生が少なく後半の出生が多いため、最終的には80人から90人の出生を見込んでいる。

○委員 後半の実績で伸びることもありうるということか。かなり数値が低いので心配してしまう。

○事務局 直近の数値を踏まえて再度推計する。今回提示した数値よりは大きくなると考えている。

- 委員 中高生アンケートは、どのような方法で実施したのか。また、こども計画の策定のためだけに実施されたものなのか。
- 事務局 アンケート回答ソフトであるLoGoフォームを作成して、生徒にはハガキで二次元コードをお届けし回答していただく方法を使った。また、こども計画の策定のために実施したものであり、中学2年生、高校2年生を対象に実施した。
- 委員 資料6の間2「山口市に住んでいて良かったと思うこと」について、「スクールカウンセラーなどの相談できる人がいたこと」の割合が11.1パーセントと低くなっている。相談できていなかったのではないかと少し驚いているところである。相談先として「家族」の割合が高くなっているが、一方で「家族以外」での相談窓口も用意してあげることが大切である。本音は言わない、でも救ってあげないといけない。相談したいと思っている生徒はたくさんいると思う。
- 委員 生まれてくる子どもが少なくなっていることに驚いている。また、若い世代が大きく流出しているのをそれをどう食いとどめていくかが重要であるように思う。その意味で、働きやすい、こどもを育てやすい環境の必要性を感じた。
- 事務局 子育て支援策を講じている影響もあり、子育て世代が山口市へ流入してきている実態もある。出生数こそ伸びていないが、人口の年度スライドでは、こどもの数が増えている。「子育て応援条例」の中で、市、保護者、こども、教育施設の役割をどうするのかを明確にしたところである。そういったコンテンツも、こども計画に盛り込んでいきたい。
- 委員 中高生アンケートは興味深い。具体的な設問はどのように検討したのか。また、回収率が低い。学校で実施することも考えられたのでは。
- 事務局 今回については、LoGoフォームにて実施させていただいた。また設問については、国等の類似事例の中から、こどもが選びやすいと考えられる設問を事務局として選択した。
- 会長 中学生は学校を通じて実施することもできると思うが、高校生は散らばっているのではなかなか難しい面はあると思う。
- 委員 中高生アンケートの間8で「山口市に必要なもの」として「勉強できる場所」という意見が複数挙げられていて、少し驚いている。そのような場所を増やしていくことに意味があることを把握することはできた。
- 委員 保育園の方でも移住されてきている人は数名いる。美山の自然を好きになってきてくださっているようだ。そのような考えを持っている人たちを大切にしていけないといけない。一方で、自然だけではなく、もっと気軽に友達と一緒に勉強できるスペースがあってもいいのではないかと。また、移住してきた人たちと市役所で意見交換することで、もっと様々な意見が出てくるのではないかとと思う。
- 委員 岐阜市に働きに行っているが、高富でのこどもに対する支援が羨ましいと言われることがある。また、学童についていろいろと策を講じてくださっていると思うが、学童の終了時間に限りがあるので、仕事時間に制限がかかってしまうのは現状としてはある。
- 会長 これらのアンケート結果をいかに生かしていくかですね。それでは次の議事(6)「山口市こども計画骨子(イメージ案)」について事務局より説明をお願いします。

～ 資料7について事務局より説明 ～

- 委員 「ひきこもり」に少し絡むと思うが、中高生が勉強するスペースも必要かと思うが、中高生の居場所、たまる場所が必要ではないかと考える。児童館は、中高生が気軽に使える状況・環境にないのが現状であるが、児童館においても幅広い世代が交流できる仕組みづくりを考えていけばいいのではないかと考えた。乳幼児と保護者と中学生の交流事業を行っているが、この交流事業やふれあい体験等を通じて、その経験が「山田市に戻ってこよう」と思えるようになってくるのではないかと感じる。その意味で、乳幼児と中高生の交流の場づくりを計画の中に盛り込んでもいいのではないかとと思う。
- 会長 広い世代で捉えていくことが大切だということかと思う。
- 委員 これまでの計画では小学校にあがるまでの対策を中心とせざるを得ない状態だった。コロナ明けに児童館や施設にくる生徒が少しずつ増えてきている。しかし遊ぶのが下手。自分の友達がいれば遊べるが、いないと帰ってしまうようなこともある。嫌いな子がくると、もう嫌だとなってしまう。上のこどもが下のこどもの面倒をみたり、下のこどもが上のこどもに甘えたりするのはできていないような気がする。頼ったり頼られたりするのが以前よりもできなくなっていると感じる。学童、思春期における施策の充実が求められると思う。
- 委員 児童館も父親の利用が増えていると思う。また、母子健康手帳についてだが、「母子」を取って「親子健康手帳」などにすると先進的ではないかと思う。また、ファミリー・サポート・センターについては、援助会員の高齢化など人数が減少しており課題も多い。「ファミリー・サポート・センター」と「一時預かり事業」と「こども誰でも通園制度」は、どれがどれなのかの区別がつかない。どうやって進めていくのかの整理ができるといいのではないかとと思う。
- 事務局 御指摘があった3つの事業は類似した形態のサービスである。「こども誰でも通園制度」は国の方でも整理はついていないと聞いている。また、「親子健康手帳」にしたかどうかとは事務レベルで検討しているところである。
- 会長 「親子健康手帳」は是非進めていただきたい。
- 委員 こどもが減っていく中で、幸せなこどもを増やす、そういった環境を整え、子育て世代も含めて多くの方が戻ってくることができる山田市になってほしい。
- 会長 本日の議論はこれにて終了。事務局にお返す。

～ 資料8「今後のスケジュール」について事務局より説明 ～

- 事務局 本日は長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。これにて会議を閉会する。ありがとうございました。

■閉会

(終了 16:30)